令和6年度 第1回 社会教育委員の会議 摘録

- 【日 時】 令和6年7月23日（火）15時00分～17時00分
- 【場 所】 大牟田市 生涯学習支援センター 1階 多目的室
- 【出席委員】 横田委員、竹谷委員、蒲原委員、西田委員、田中(吉)委員、
江崎委員、江口委員、江崎委員、久保委員、柿川委員、堺(裕)委員
- 【欠席委員】 堺(婦)委員・松尾委員
- 【行政関係者】 大倉野市民協働部長、高口市民協働部副部長、徳川生涯学習課長、
浦川生涯学習課地域学習担当課長、佐藤人権・同和・男女共同参画課長、
西村スポーツ推進室長、加藤世界遺産・文化財室室長
田中生涯学習課社会教育主事、藤木生涯学習課社会教育振興担当職員

◆委嘱状交付

今年度は社会教育委員の一斉改選にあたり、全委員に委嘱状を交付。
任期は令和8年6月30日までの2年間。

◆あいさつ

大倉野市民協働部長
堺議長

◆自己紹介（委員および職員）

令和6年度社会教育委員の名簿順に自己紹介、行政関係各職員の自己紹介。
初就任の委員が多いことから、自己紹介に続いて、社会教育法・社会教育委員設置条例について説明を行う。

◆議長および副議長の選出

委員互選により、前期同様、堺（裕）委員を議長、江崎委員を副議長に選出。

◆福岡県社会教育委員連絡協議会評議員について

前期同様、堺（裕）委員に委任。

◆議題

1 令和5年度社会教育委員の会議等実績報告及び令和6年度事業計画案について

事前配布資料「令和5年度 社会教育委員の会議等事業実施報告」、「令和6年度 社会教育委員の会議等事業計画（案）」を基に、田中生涯学習課社会教育主事より報告・説明。以下の質問が出た。

議 長	いまの説明を聞いて意見・質問等はないか。
-----	----------------------

委員	昨年度、八女市と鳥栖市の視察を受け入れているとのことだが、本年度の視察受け入れ予定はあるのか。
行政職員	要請があればもちろん受け入れる。

2 令和5年度社会教育振興プランの進捗について

別添資料「大牟田市社会教育振興プラン2020～2023」および会議資料内P. 9～P. 11「社会教育振興プラン2020～2023に掲げる基本施策と事業の達成状況」に基づき、高口市民協働部副部長より説明と報告。以下の意見・質問が出た。

委員	地域ESDについて、中学校では総合的な学びの時間として、地域活動と協働して企業とも協力しながら10年以上のスパンで継続して実施している。できれば今後は行政機関とも提携して活動を進めていきたい。
行政職員	ぜひお願いしたい。
委員	会議資料9ページ「将来、大牟田のために役に立ちたいと思う高校生の割合」が、他の年に比べて令和3年度のみ極端に低い、これは何が原因か。
行政職員	市で準備したアンケートの設問が、高校生にとってあいまいで分かりづらく回答しにくかったため、数値が低くなったものとする。
委員	会議資料の9から11ページの内容は、事業に参加した高校生へのアンケートの集計結果とのことだが、実際に昨年度、事業に参加した高校生の数はどれぐらいか。昨年度は「絆と夢の青春祭」が開催されたため、かなり多かったのではないか。
行政職員	市内高校8校で20名程度であった。「絆と夢の青春祭」は、高校生が実行委員会として運営したイベントであるため、アンケートの人数に含まないものをご理解いただきたい。
議長	公民館利用者の観点から、何かご質問はないか。
委員	昨年度の公民館で開催された養成講座に参加した。新たに講座を開講したいという受講生10名ほどで継続して活動しているが、公民館で新しいサークルを作ってもお知らせする場がなく、『ここにさえアクセスすればどこの公民館で何が学べる』といった、市の総合サイトもない。愛情ねっつを見るにも登録が必要なので、何かやりたい人・知りたい人に情報が届きづらい。サークル情報の発信・収集がしやすいよう、市が一元化してまとめてほしい。
行政職員	サークルの紹介について、現在、各地区公民館・生涯学習課内生涯学習担当・地域学習担当が行っているが、情報の検索についてもっと分かりやすくして欲しいとの要望が多く寄せられている。市としては、LINEや愛情ねっつ等SNS上の情報を、「公民館だより」などの紙ベースとの併用を行いながら、発信していきたい。また、公民館の掲示板では他の公民館での催し物の内容等も確認できるので、活用してほしい。サークル会員の募集を市が行っていた時期もあったが、コロナ禍によって途絶えてしまった。生涯学習担当と地域学習担当が協力して現状を改善していく所存である。

委員	<p>子どもの居場所のお知らせや情報がLINEで流れてくるのと同じように、市の公式HP等、SNS関連も分かりやすくしていただきたい。サイトを開いても、欲しい情報の入り口がどこにあるのか分かりづらい。</p>
行政職員	<p>市の公式LINEやHPについては、様式等は新しくなったが、大元の部分が変わらなかったという現状がある。</p> <p>令和4年度に生涯学習課が行った市民意識調査アンケートでは、市の生涯学習活動の内容が市民に上手く伝わっていない事が判明し、情報発信の方法について見直していく必要性が浮き彫りとなった。また各事業について、日時や会場など一般的な情報だけでなく、実際にそこで活動している人の『顔』、『声』、『生きがい』をキャッチし、発信していく事が必要であると感じている。発信方法の手直しの検討を進めているところなので、事務局や行政職員、公民館宛てにぜひ皆さまのアイデアをお寄せいただきたい。</p>
委員	<p>公民館の利用者は年配の方が多いが、やはり、情報が紙ベースでないと分かりづらい。また、各公民館へ行けば情報が手に入るが、わざわざ公民館へ出向いたり電話をかけたりしない。対して若い世代は、スマホを利用するほうが分かりやすい。また、よく若い方から『大牟田市には魅力がない』『なにもない』という声を聞くが、ないのではなく、知る機会がないだけだと考える。情報の発信は、個人で行うには限界がある。市に協力をお願いしたい。</p> <p>もともと、子どもは大牟田市の情報サイトを見ない。大人はサイトを見るが、市の情報や市のことを、子どもにあまり伝えていない印象がある。子どもは自分がすごく興味のあるものしか見ようとしないので、子どもに市や公民館のサイトを開かせる工夫、例えば、学校で『こんなサイトがありますよ』と紹介するなど、一度顔を合わせて直接的なアピールを行ったほうが情報が伝わりやすいのではないかと。そういった機会がなければ、クラブ活動などで忙しい子どもたちは、市の情報を入手できない。</p> <p>地区公民館での子ども交流体験活動事業の様子をたまたま見かけたが、茶道教室でお茶の作法だけでなく、和の所作や礼儀なども教えておられ、子どもたちにとって非常に豊かな体験であると感じた。</p>
行政職員	<p>それは、三川地区公民館で行っている夏休みの子ども体験のバージョンアップの講座の中のひとコマである。館長によると保護者向けに分かりやすいパンフレットを作成したほか、夏休み期間中の事業をカレンダー化しているとのことだった。ご意見をいただいているように、子どもたちにいかに希求するかというのはとても大事である。</p>
委員	<p>HPで子ども向けの情報をアップするのは良いアイデアだと思う。</p> <p>アンケートでは子どもたちの事業への参加リピート率100%を目標数値としているが、それなら子どもたち用にもアンケートを準備し、あまり人気のない事業を削ってはどうか。人気がない事業でも継続していく予定なのか。</p>

行政職員	継続したいと考えている。各事業の人気のあるなしについては色々のご意見をいただくが、各サークルの方々が自らボランティア精神で手を挙げ、子どもたちのために活動をされている。よって、参加目標値を低くすることは考えていない。
委員	アンケートの各設問において達成率100%を目指すには、不人気な事業を削るなどの改善がどうしても必要になってくると思われる。公民館では、常に昨年度の実績を踏まえて運営委員会が改善を重ねておられる。また、子どもたちの居場所事業に関しては、民生委員の方々が尽力しておられる。子どもたちに田植えを体験させるなど、取り組み内容が素晴らしいと思う。 そもそも、リピート率100%を目指すのは、目標値として高すぎるのではないか。
行政職員	ぜひ達成したい数値なので、今のところ目標変更の予定はない。

3 大牟田市社会教育振興プラン 2024～2028 について

当日配付資料「大牟田市社会教育振興プラン 2024～2028」に基づき、高口市民協働部副部長より説明。(意見・質問なし)

4 令和6年度社会教育・生涯学習事業計画について

事前配付資料「令和6年度社会教育・生涯学習事業計画」に基づき、高口市民協働部副部長より説明。以下の意見・質問が出された。また、協議ののち、事業計画の実施が承認された。

委員	3ページの25番にある「高校生まちづくり部」について、具体的にどのような活動を行っているのか。
行政職員	立ち上がったばかりの事業で、現在は13名の高校生が部員として参加している。実際にまちづくりのためには何をすればよいか、何をすれば自分たちの好きなことがまちづくりに繋がるのかということは、高校生ではなかなかイメージが難しいので、まずは色々な人の話を聞いたり、『まちを知る』ということでフィールドワークを計画するなど、3回程度の活動の中で少し視野を広げたところから実行に移してみようと、話し合いを中心に進めているところである。ゴールとしては年度末に成果物を発表できる形にしていこうと考えている。
委員	事業内容としては高校生が企画し、自ら取り組み実行するものであると理解した。しかしそのためには、ある程度の課題提示と課題解決が必要と思われるが、子どもたちにやってもらいたいこととか達成してほしいこととして、こういったものを考えておられるか。
行政職員	高校生たちに市が用意した課題を与えて考えてもらうのではなく、高校生たち自身がそれを見つけ、自分たちに出来ることを探すことに意義があると考えている。例えば防災を課題として挙げて、市は遠巻きながらそれが問題であることに気付いてもらい、そこから少しずつ企画と実践につなげていこうと

	しているところである。
委員	<p>「絆と夢の青春祭」について、市の予算が掛かっている素晴らしい企画だったにも関わらず、来場している高校生が残念ながら少なかった。やはり、若いからということもあるのかも知れないが、高校生たちにとって『どういふことでまちが良くなるか』を考えるのは非常に難しいのではないか。全くまっさらな状態からではなく、幾つか課題を並べておいて、そこから選んで考えてもらうような形でもよいのでは？</p> <p>例えば白金校区では、年配の方がリサイクルごみを出すのに苦労している問題があったが、敬老の日に子どもたちがお年寄りの家を回った際にとっても喜んでいただけたことから気付きを得て、以降年に1回、地域のご年配の皆さんとごみ出しを絡めた交流が行われている。</p>
行政職員	<p>課題というよりは、高校生の『自分たちの好きなことや興味のあることをやる事が実はまちづくりに役立つんだ、自分たちもまちづくりに参加できるんだ』との気付きにつながるよう、働きかける方向性で動いているところ。市としても課題を与えるほうが楽ではあるだろうが、今回の取組みはチャレンジ的な形で、高校生がまちづくりを『すごく遠いもの』ではなく近いものとして感じてもらえるよう、企画を進めていきたい。</p>
委員	<p>「まちづくり」に関して、実際に何を行うべきか大人が分からないのだから、子どもにも意味合いが分からないのでは。『まちにとっていいことをしていますよ、皆さんもどうですか？』というような働きかけや、『自分たちが参加することがいい未来につながる』と思わせることが、子どもたちにとっては分かりやすいのではないか。</p>
行政職員	<p>さきに述べたとおり、子どもたちにとっての気付きのステップを作ろうとしているところである。難しいことではあるが、『企画があるからそれをやります』では、後につながらない。大人は伴走するだけで、極力可能な限り、高校生が手の届く範囲でやっていただきたい。</p>
委員	<p>子どもたちが聞かないのでは？子どもたちが親しみやすい年代の若者が『やろう！』と働きかけたり、笑いを含めるなど、真面目なだけではなく、伝達の仕方がソフトなほうが、やってみようかなという気になるのでは。企画自体はとても良いものだと思うので。</p>
行政職員	<p>企画立案や目標の設定が『子どもたちにはぼんやりしていて難しい、とても出来ないだろう』という指摘は多いが、やはり高校生の主体性を大事にしたい。行政側から『まちづくりはこうする』という提言は極力しない方向でいきたい。</p>
委員	<p>固い働きかけでは、子どもたちには『昭和やん！』で終わってしまい、魅力が伝わらない。例えば市役所の若い方から伝えるなど工夫をすれば、子どもたちにとって情報を受け入れる窓口が広がるのでは。</p>

行政職員	仰るとおりで、もっと若い人たちと連携すべきところだと考えている。例えば大牟田市の特産品をつくるとして、『どうやって宣伝しよう？どんな手続きが必要なのか？』など、高校生が少しずつ関わっていくことを織り込んでいきたいと思う。あえて『こうしてください』というゴールを大人側からセットすれば、大人の都合にあわせてしまうことになる。理想論かも知れないが、高校生の自主性と自発性に任せたい。
議長	子どもたちへのアプローチの手段や『こうなったらいいな』といったご意見など、その時々で上手くいくよう、これからも一緒に考えていけたらと思っている。皆さまのお力添えをお願いしたい。
委員	協議内容ではないが、2ページと13ページの記載内容に、「障害」という表現がある。いま、学校では『が』は平仮名を用いられている。また、一般的には平仮名である。市が広く出す資料として、表現を変えたほうがよいのではないか。
行政職員	文部科学省の文書や、国の計画等では漢字を使用されている。平仮名表記があるということは把握したうえで、国に倣ってというところもあるが、大牟田市の予算や計画の表記等も、市の方針として漢字で統一している。
議長	法律上でも漢字での表記が残っているところもある。しかしながら、平仮名にするべきという捉え方もあると重々認識していただきたい。
行政職員	貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。
委員	さきに協議した「高校生まちづくり部」について、若者たちには、大牟田の情報を発信するような活動をしてほしい。
行政職員	高校生に『大牟田はこんなまちだよ』『大牟田市っていいよね』と発信して欲しいというのは、我々も思っているところであるが、それを高校生たちが自ら『発信したい！』と思うように働きかけていきたい。
委員	まさに小学校・中学校で行っている「総合的な学習の時間」における『自ら課題を見付ける』という目標に沿うものだと考える。しかしやはり、子どもたちの主体性はもちろん大事だと思うが、それが生まれるまでには『物事との出会わせかた』が大事なのでは。なんでも任せてしまえば、方向性が定まらないのではないか。課題と出会わせる方法が必要ではないか。 とある小学校で現在、竹について、『竹害』を『竹財』にしようという取り組みを行っている。子どもたちが参加して、伸びすぎた孟宗竹でバンブーロード、道を作ったり、いわゆる『竹といえば箸やカップや竹炭の創作！』というのではなく、子どもたちがもうひとつ大きな視野をもって、害を財にしようとの試みであるが、子どもたちが自分たちで考えて自主性に基づいた工夫や実践をし、知恵を出し合ってまとまることで、事業として良い方向へ向かっている。やってみて結果はどうあれ、『やること』が大事なので、今後とも見守っていく所存である。

	<p>また玉川小校区では、水曜日が午前中授業であることから、放課後塾を行っている。13時30分から14時までを宿題などの学習時間に充て、14時から15時までを、地域の技能者や知識のある方々が子どもたちに地域の色々なことを教えたり、30分程度の活動ではあるが上級生が下級生に勉強を教えるなど、良い傾向で進んでいる。去年から始まった試みで、大体年間で17～18回行っている。そのことで、子どもたちの思いやりや積極性、責任感、6年生の指導力が育っている。大人は黙って見守っているだけであり、まさに子どもたちの『自主性』によって続けられている。</p> <p>いま、小学校から中学校での「総合的な学習の時間」で、色々な体験を通じて様々なことを身に付けた子どもたちが育ってきている。自分たちのまちや世界遺産を愛する子どもたちの今後を楽しみにしているところである。さきの議題でも『来場者や参加者が少ない』ことが問題だったが、子どもたちのせっかくの学びや体験に対して、大人たちが高校生を含めもっと広めて参加することが皆の『何かやろうかな』につながると考えられる。我々もその輪を広げていかなければならない。</p> <p>子どもたちが小学校で色々と体験していたことが、中学校へ上がることで途切れてしまう傾向がある。現在は一貫教育で昔に比べれば改善されたと思うが、子どもたちにとっては、せっかくの学びが活かせなくなった、あるいはその体験や学びをどうやって大人たちに伝えていくか分からないといった問題がある。『子どもは勉強したのに大人は何もしていない』とならぬよう、大人たちが環境を整えるべきだと思う。</p>
議長	<p>今後ともまちづくりについて、よりよい方向へむかうよう考えていきたい。</p>

◆その他

1 大牟田市子ども読書推進計画の改定について

当日配付資料「大牟田市子ども読書推進計画の改訂について」ならびに「大牟田市子ども読書推進計画（第3次）」に基づき、徳川生涯学習課長より報告。（意見・質問なし）

2 大牟田市人権問題意識調査結果（概要版）について

当日配付資料「大牟田市人権意識調査結果（概要版）」に基づき、佐藤人権・同和・男女共同参画課長より報告。（意見・質問なし）

3 子育て情報誌「おおむたっ子」への社会教育委員メッセージについて

当日配付資料「子育て情報誌 おおむたっ子」について、浦川生涯学習課地域学習担当課長より社会教育委員へ寄稿依頼。8月30日締切り。（質問なし）

◆委員等より報告・案内

柿川委員 … 天の原校区と玉川校区合同で8月3日17時より開催される勝立大蛇山まつりの告知

江口委員 … 大蛇山まつり前夜祭で開催される「舞台芸能の夕べ(25日17時から)」、「市民対抗歌合戦(26日18時から)」の告知。大牟田文化会館大ホールにて

田中生涯学習課社会教育主事 … 委員報酬の振込み手続きに係るお知らせ

⇒次回会議 令和6年11月 予定